

政策コメントター報告(第2回)(意見照会期間:2016年10月31日～11月11日)

分野:	第4次産業革命・Society5.0、イノベーション	
氏名:	國部 毅	株式会社三井住友銀行頭取
	質問事項	記述式回答
	予測される経済・社会的な構造変化(2030年)	(300字以内で回答してください)
(1)①	2030年には、各分野において、どういった経済・社会的な構造変化が予測されるでしょうか。	わが国の生産年齢人口(15歳～64歳)は2015年から2030年にかけて、7,708万人から6,773万人へ900万人以上減少するとの予測があり、このままでは労働投入量の減少に伴い、現時点で0%台前半のわが国の潜在成長率が更に押し下げられることとなる。こうした人口動態によるマイナス影響を跳ね返していくためには、女性や高齢者の活躍推進といった取組みに加え、加速度的に進歩するテクノロジーの活用を通じた生産性の向上がカギとなる。テクノロジーの発展を現時点から予測することは困難ながら、IoTやAI(人工知能)、ロボット、バイオテクノロジーといった現在注目されているテクノロジーだけでなく、現時点では注目されていない、もしくは発案・発明されていない新たなテクノロジーが、社会のあり方や人々のライフスタイル、産業構造、企業のビジネスモデル等を一変させることになるだろう。
	目指す経済・社会の姿(2030年)	(200字以内で回答してください)
(1)②	また、そうした構造変化を踏まえ、我が国が目指す経済・社会の姿はどうあるべきでしょうか。	生産性の向上(イノベーション)や新規投資の促進等により、生産年齢人口の減少に伴うマイナス影響を打ち消し、潜在成長率が高まっていく経済・社会を目指すべき。潜在成長率を高めることで、新たな投資需要を生み出し、それを更なる成長に繋げるといった好循環が形成されることが理想。生産性の向上に向けて、新たなテクノロジーを次々と生み出し、実用化していくといったエコシステムが構築されていることが望ましい。
	今後取り組むべき構造改革(2016年～2030年)	(300字以内で回答してください)
(2)	上記(1)で挙げられた経済・社会の姿を実現するためには、足元から今後に向けてどのような構造改革に取り組むべきとお考えでしょうか。基本的な考え方や具体的な方法がございましたらご記載ください。	イノベーションや新規投資を促進するためには、①新たなテクノロジーの創出に向けた産官学の連携、②民間の活力を最大限発揮するための環境整備、③新たなビジネスにチャレンジするベンチャー企業の育成支援、等が必要と考えられる。具体的には、①については、基礎研究に対する支援の充実、研究開発投資に対する財政支援(税制優遇等)の拡充等、②については、国家戦略特区を活用した規制緩和の推進や国際競争力強化に向けた更なる法人税率の引下げ等、③については、ベンチャーエコシステムの構築に向けて、産学連携の強化やベンチャー企業のグローバル展開に対するサポート等を進めていくことが有効と考える。

分野:	少子高齢化、社会保障	
氏名:	國部 毅	株式会社三井住友銀行頭取
	質問事項	記述式回答
	予測される経済・社会的な構造変化(2030年)	(300字以内で回答してください)
(1)①	2030年には、各分野において、どういった経済・社会的な構造変化が予測されるのでしょうか。	わが国では、人口減少、高齢化が一層進展。総人口は、2015年の1億2,711万人から2030年には1億1,662万人へ減少する一方、65歳以上の高齢者は同期間に約300万人増加し、高齢者比率は27%から32%へ上昇。高齢者の増加に伴い、医療・介護・年金といった社会保障給付が拡大(2012年度の約110兆円から2025年度には約150兆円に膨らむとの政府試算あり)。社会保険料や自己負担を上げたとしても、引続き国庫負担が増大し、財政赤字の解消が難しくなる。財源捻出のため、更なる消費税率引き上げの可能性あり。また、現役世代の負担増大により、将来不安が高まり、消費が抑制されるほか、少子化の流れに歯止めがかからない恐れ。こうした状況が長引けば、世代間格差の更なる拡大によって、社会が不安定化する懸念あり。
	目指す経済・社会の姿(2030年)	(200字以内で回答してください)
(1)②	また、そうした構造変化を踏まえ、我が国が目指す経済・社会の姿はどうあるべきでしょうか。	持続可能な社会保障制度のもとで、人々が将来に希望を持って生きられる経済・社会の実現を目指すべき。質の確保を前提に給付の効率化・重点化を図りながら、より公平な負担を実現するシステムを構築していくことで、若年層や子育て世代が将来不安を抱くことなく、安心して子どもを産み、育てられ(出生率が高まり)、結果として経済活動が活発化されることが望ましい。
	今後取り組むべき構造改革(2016年~2030年)	(300字以内で回答してください)
(2)	上記(1)で挙げられた経済・社会の姿を実現するためには、足元から今後に向けてどのような構造改革に取り組むべきとお考えでしょうか。基本的な考え方や具体的な方法がございましたらご記載ください。	社会保障費の抑制に向けて、病床再編や地域差の是正等を通じた医療・介護費の削減、就業状況等に応じた年金支給開始年齢の見直し等を進めていく必要あり。とりわけ、健康増進や予防医療などによって、国民の健康寿命を延ばしていく取組みは重要。健康な高齢者が増えれば、医療費や介護費の削減に繋がるだけでなく、人手不足の解消にも資する。また、少子化対策としては、保育所の整備や保育士の待遇改善といったサポートの充実を進めていくことも重要。消費税率については、2019年10月に予定されている8%から10%への引き上げに向けて経済環境の整備を着実に進めるとともに、必要に応じて更なる引き上げについても検討。

分野:	人材育成・働き方	
氏名:	國部 毅	株式会社三井住友銀行頭取
質問事項	記述式回答	
予測される経済・社会的な構造変化(2030年)	(300字以内で回答してください)	
(1)① 2030年には、各分野において、どういった経済・社会的な構造変化が予測されるでしょうか。	<p>人口動態面では、労働供給の減少が加速する。2015年(国勢調査)から2030年(国立社会保障・人口問題研究所の中位推計)にかけて、生産年齢人口(15~64歳)が約900万人減少する。とりわけ減少が著しいのは、労働生産性が高く「働き盛り」と言われる30代、40代で、この期間に約660万人減少する。一方、65歳以上の高齢者は約340万人増加する。そのなかでも、比較的労働力率の高い65~69歳人口は約230万人減少し、高齢者の労働供給力も低下する。一方、経済面ではIoTの進展でモノとサービスの一体化が進み、経済のサービス産業化に対応できる人材の需要が急拡大する。</p>	
目指す経済・社会の姿(2030年)	(200字以内で回答してください)	
(1)② また、そうした構造変化を踏まえ、我が国が目指す経済・社会の姿はどうあるべきでしょうか。	<p>年齢や性別を問わず、勤労意欲のある全ての人々が自らの能力を発揮し、生き活きと働ける経済・社会を目指すべき。専門的なスキルを持った外国人材を含め、様々なキャリアや経験を有する人材が活躍できる多様性(ダイバーシティ)のある職場が実現されていることが望ましい。また、グローバル化や第4次産業革命・Society5.0といった経済構造、産業構造の変化に応じた教育・職業訓練制度等、労働生産性の向上が図られる社会システムが構築されることを期待。</p>	
今後取り組むべき構造改革(2016年~2030年)	(300字以内で回答してください)	
(2) 上記(1)で挙げられた経済・社会の姿を実現するためには、足元から今後に向けてどのような構造改革に取り組むべきとお考えでしょうか。基本的な考え方や具体的な方法がございましたらご記載ください。	<p>育児や介護等によって働きたくても働けなくなってしまう労働者が生じないよう、保育施設や介護施設の整備、保育士・介護士の待遇改善に引き続き取り組むことが必要。高齢者に対しては、健康寿命の延伸に向けた取組みを強化するほか、在職老齢年金制度の見直し等により60~65歳の就業を促すことも有効と考える。外国人材の活用については、高度人材の受入促進に加え、留学生の受入拡大やその後の日本での就職支援を強化することで、日本への理解が深い外国人材を増やしていくことが求められる。また、今後もグローバル化や産業構造の変化に対応できる人材を育成するため、教育や労働者職業訓練の充実、企業内研修に対するサポート等も有効と考えられる。</p>	